

# ギンヤンマ

*Anax parthenope*



ギンヤンマ

## 名前の由来

腹部にある銀白色紋に由来するといわれている。ヤンマの語源はよくわかっていない。トンボのうち、田んぼの周辺に発生する中型のトンボを「田ん坊(たんぼう)」と呼び、山地の方にすむ大型のトンボを「山ん坊(やまんぼう)」と呼んだのが、それぞれ「トンボ」と「ヤンマ」になった、と考えては、という説もある。漢字名：銀蜻蛉

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原) 鳥類  
ワシタカ  
樹林

## 形態的特徴

体長74~80mm。オスは胸部が明るい緑色で腹部のつけ根が水色である。メスは腹部つけ根の水色が無いタイプがある。

類似種：なし。胸部が明るい緑色をしている大型のトンボはギンヤンマのみ。

## 生息環境・分布

平地から丘陵地の池沼や湖、河川。

分布：中国、朝鮮半島、台湾に分布。国内分布は、日本全域。北海道内では、全域に分布しているが、東北部では稀。

十勝地方では、平地の池沼や河川に生息しているが少ない。帯広市(売買川)、芽室町、豊頃町、浦幌町、十勝川沿いの池や沼などで確認されている。

## 食性・他生物との関わり

幼虫時期はユスリカやイトミミズ、ボウフラ、小魚、オタマジャクシなどの水中の小動物。成虫になるとカやアブ、ハエ、ハチ、チョウなどの昆虫類やクモ類を捕食する。小型のトンボ類を食べることもある。1日に体重の10%の餌

を食べるといわれている。

幼虫は魚類やカエルなどに捕食され、成虫になるとクモ類(網にかかった場合)やチゴハヤブサなど小型の猛禽類に捕食されているものと思われる。

## 繁殖生態・寿命

卵は約12日間で孵化し、幼虫で越冬する。成虫は6月上旬から10月下旬に見られる。連結したまま水草の茎に産卵す

る。寿命：幼虫期間8ヶ月、成虫期間1~2ヶ月。

## 興味深い話

■ギンヤンマは「トンボ釣り」という遊びで子どもたちに親しまれていたトンボである。「トンボ釣り」とは、まずメスを捕まえ糸をつけてオスの前に飛ばし、オスがメをつかまえにくる習性を利用してオスを捕まえる遊びである。

■別名も多く、ギン、チャン、ヤマ、ラッポーなど子どもたちがつけた愛称は全国で数百にもなるという。

■十勝地方のアイヌ語で、トンボ類を「ハンクカチュイ」という。

## 配慮事項

他のトンボ類と同様に、池や沼、河川の中に水草が生えていることが大事。羽化するときに水草に登って羽化する。

池や沼の周辺に樹木や草原があることも大事。羽化後の成虫の採餌場と休息場となる。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期	■									■		
成虫期						■						

## 参考文献

「蝦夷の蜻蛉」広瀬良宏・伊藤智 自費出版 1993  
「北海道のトンボ」二橋愛次郎 エコネットワーク 2002  
「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」石田昇三・石田勝義・杉村光俊 東海大学出版会 1988  
「講談社カラー科学大図鑑 トンボ」枝重夫 講談社 1982  
「日本産トンボ大図鑑」浜田康・井上清 講談社 1985  
「トンボのすべて」井上清・谷幸三 トンボ出版 1999

「カラー日本のトンボ」石田昇三・浜田康 山と溪谷社 1973  
「自然の観察事典⑦ギンヤンマ観察事典」小田英智・松山史郎 偕成社 1996  
「名前といわれ 昆虫図鑑」栗林慧・大谷剛 偕成社 1987  
「コタン生物記Ⅲ 野鳥・水鳥・昆虫篇」更科源蔵・更科光、法政大学出版局 1977